

5歳児 I期 (4月～5月)

預かり保育

長時間保育

ねらい

- ◎ 生活の流れや仕方が分かり、安心して過ごす。
- ◎ 自分の好きな遊びや興味・関心をもった事柄を見付けてかかわり、楽しむ。
- ◎ 保育者や友達とゆったりとしたかかわりを楽しむ。

- ◎ 年長になった喜びや自信を味わいながら、園生活を楽しむ。
- ◎ 積極的に戸外に出て、全身を使って遊び、春の自然に触れる。
- ◎ 友達と思いを伝え合いながら一緒に遊ぶ。生活の流れや仕方が分かり、安心して過ごす。

内容・活動等

- 自分の居場所を見付け、安心して過ごせる場所であることを知り、安心して過ごす。
- 生活や遊びの中にきまりがあることを知り、守ろうとする。
- 遊具や場の使い方を知り、安心して遊ぶことを楽しむ。
- 預かり保育室で、気に入った遊具や遊びを見付けて、やりたい遊びを十分に楽しむ。
- どんな遊びができるかが分かり、楽しみにする。
- 友達や保育者に分かるように、自分の思いや気持ちを伝えようとする。
- 友達の思いを聞こうとしたり、友達が行っていることに気付いたりする。
- 預かり保育担当の保育者に親しみをもち、一緒に遊んだり、困っていることを伝えたりする。

- 生活の流れや仕方が分かり積極的に行動する。
- 友達と一緒に全身を使って様々な遊びを楽しむ。
- 友達と一緒に好きな遊びをする。
- 積極的に戸外へ出て、春の自然や季節の変化に興味をもつ。
- 保育者や友達の話聞いて、理解しようとする。
- 自分がやりたいことや困っていることを、保育者や友達に言葉で伝える。
- 異年齢児の世話をしたり、一緒に遊んだりして親しみをもつ。
- 午睡の時間の過ごし方を考え、十分に体を休めることの大切さを知る。

◇ 環境構成

- ◆ 教育活動の様子など幼児の一日の過ごし方に配慮しつつ、幼児の気持ちに寄り添いながら無理のない活動内容を考える。
 - ◆ 物の置き場所が分かり、安心して自分から動き出すことができるように、所持品の置き場所に目印を付けたたり、遊具や用具の場所に表示を付けたたりするなど、環境を工夫する。(絵や写真を利用した表示をするなど)
 - ◆ 天候や幼児の興味・関心に応じて戸外、室内の遊びが並行して行えるように環境設定をする。
- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ◇ 保育室を明るく、家庭的な雰囲気に整え、新しい生活環境に安心感をもてるようにする。 ◇ ござやつい立てを利用したコーナー設定を行い、リラックスできたり、一人で過ごせたりする空間を作っていく。安全に配慮して整備する。 ◇ ゆったりと安心して過ごせるように、慣れ親しんでいる遊具、用具を用意する。 ◇ 降園身支度の仕方が分かるように、手順を視覚的に示したり、一人一人のペースに合わせた時間を確保したりする。 | <ul style="list-style-type: none"> ◇ ゆったりと過ごせるコーナーや友達と一緒に遊べるコーナーを設定する。 ◇ 幼児と共に生活の場を作っていくことを大切に、その過程を通して5歳児になった充実感がもてるようにする。 ◇ 生活の流れを幼児と確認しながら、変わったところは丁寧に指導していく。生活の流れや時間については自分で気付き行動できるように、決まった時間ややり方を知らせる。 ◇ 伸び伸びと安定した気持ちで生活できるように、一人一人の気持ちを受け止め、ゆとりをもてる時間を設定する。 ◇ 午睡の場所を決め、安心して休息できるようにする。 |
|---|--|

預かり保育

長時間保育

<p>☆ 保育者の援助</p>	<ul style="list-style-type: none"> ★ 5歳児になり張り切って生活する姿を見守るとともに、甘える姿も受け止める。 ★ 活動を通して一人一人との触れ合いを大切にし、信頼関係を育てていく。 ★ 幼児が困ったり不安になったりする姿が見られた時は、その気持ちに寄り添い、そっと手助けをしたり、声を掛けたりして、安心して過ごせるようにする。 ★ 生活の流れの切り換えについて、幼児の様子を見ながら声掛けしたり、手助けしたりすることで、自分でできることは自分で行っていけるように援助し、幼児が自分でできた喜びを味わえるようにする。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 一人一人の幼児の状況や生活リズムに合わせた対応を心掛ける。 ☆ 預かり保育へ安心して移行できるように、一人一人に合った丁寧な援助をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 自分の健康や体について関心を持ち、生活リズムや休息、水分補給の大切さに幼児自身が気付き理解できるよう、援助する。 ☆ 一人一人の生活を見守り、自分でできるように援助をする。 ☆ 保育者が一緒に遊び、体を動かすことの楽しさを共感する。 ☆ 一人一人の気持ちをしっかり受け止め、信頼関係を築き、情緒の安定を図る。
<p>△ 保育者間の連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▲ 申し送りの方法や連絡ノートの扱い方（記入の方法、回覧の方法など）について、年度当初に保育者間で共通理解する。 ▲ それぞれの時間帯の一人一人の様子について情報交換する時間を持ち、幼児の実態、よさ、課題などについて共通理解する。 ▲ 新年度には、保護者への伝達事項が多くなることが予想される。保育者は、保育にかかわる役割と、保護者対応をする役割に分かれ、連携して対応する。 	
	<p>△ 進級後、初めて預かり保育を利用する幼児も多いので、移行時には、当日の預かり保育担当者に密に申し送りをする。</p>	<p>△ 進級して環境が変わるので、移行の方法（幼児の身支度の仕方、保育者の動きなど）を、保育者間で共通にしておく。</p> <p>△ 個々の幼児の様子を把握し、時間設定（午睡のもち方や移行時間など）について保育者間で話し合う。</p>
<p>□ 保護者との連携</p>	<p>■ 保護者に、教育活動の様子を知らせる掲示板があることを知らせ、その掲示板を忘れずに見ることを促す。</p>	
	<p>□ 保護者が園に対して安心感をもてるように、送迎時を利用して、教育活動時の様子や預かり保育で楽しく過ごしている様子を伝える。</p>	<p>□ 保護者が園に対して安心感をもてるように、送迎時を利用して、教育活動での様子や長時間保育で楽しく過ごしている様子を伝える。</p> <p>□ 環境が変わり、不安を感じる保護者もいるので、話を聞いて不安を受け止めたり、園での様子を具体的に知らせたりする。</p> <p>□ 就学に向け、午睡をしない生活への移行が円滑にできるように、家庭での生活リズムや状況等を把握し、休日の午睡や生活リズムについて保護者とともに考える。</p>

5歳児 Ⅱ期（6月～9月上旬）

預かり保育

長時間保育

ねらい

- ◎ 自分の居場所や安心して過ごせる場所を見つけ安心して過ごしつつ、自分のことは自分で行う。
- ◎ 室内外で友達と体を動かして遊ぶ。
- ◎ 友達とのつながりを深め、思いを伝え合いながら遊びを進める。

- ◎ 活動と休息のバランスを考え、元気に過ごせるようにする。
- ◎ 自分の力を十分に発揮して、活動や遊びに取り組む。
- ◎ 友達とのつながりを深め、夏ならではの遊びを楽しみ、試したり考えたりして遊ぶ。

内容・活動等

- 預かり保育の保育者との信頼関係ができ、安心して過ごせる場所だということを知り、預かり保育で遊ぶことを楽しむ。
- 生活の流れを覚え、自分でできることを自分でやろうとする。
- 好きな遊びを見つけ、自分なりのペースや楽しみ方で過ごす。
- 戸外や室内で体を動かして遊ぶ。
- やってほしいことややってみたいことを保育者に言葉で伝え遊ぶ。
- 遊びや生活を通して友達とのかかわりを深めていく。
- 友達とのつながりを感じながら遊び、互いに自分の考えや気持ちを表したり相手の話を聞いたりする。

- 水分補給に気を付け、活動と休息のバランスを考え、元気に過ごす。
- 自分で気付き、汗を拭いたり衣服の調節をしたりする。
- 戸外で友達と水に触れたり、シャボン玉や虫取りをしたりするなど、夏ならではの遊びを楽しむ。
- 様々な素材を使って、友達と一緒に作ったり表現したりする。
- 意見の違いがあっても、友達の気持ちや考えを知り、分かろうとする。
- 友達と相談しながら、様々な遊びを考えたり、生活を進めたりする。
- 身近な昆虫や動植物に関心をもち、栽培や飼育を通して命の大切さを知る。
- 午睡の時間が体を休める大切な時間であることに気付き、体を休める。

◇ 環境構成

- ◆ 水遊びやプール活動などの教育活動を考慮し、ゆったり過ごせるような環境や遊びを設定する。
- ◆ 気温や天気、その日の運動量などを考慮し、戸外活動や遊戯室を利用した運動的な遊びとゆったり過ごせる環境を用意する。
- ◆ 遊びの様子や人数に応じて、安心して過ごせるように環境を構成するとともに安全にも配慮する。
- ◆ 個々の興味に合わせてじっくりと取り組んだり、幼児が主体的に遊びに取り組んだりできるよう、環境設定や時間の確保を行う。
- ◆ 環境設定や活動時間を同じにすることで、自分から気付き、自分でできることは自分でしようという気持ちを育てていく。

◇ 慣れ親しんでいる遊具、用具を用意し、様子を見ながら新しい遊びを取り入れ、楽しめるように工夫する。

- ◇ 一人一人が好きな遊びをじっくり楽しんでいけるように玩具や遊びの内容を考え、用意しておく。家庭的な雰囲気の中でゆったりと過ごせるような環境作りを心掛ける。
- ◇ 午睡は、眠れない幼児への対応（休息の取り方や午睡から起き、静かに過ごすなど）を考慮する、時間を短縮するなど、就学に向けて無理のない計画を立てる。

預かり保育

長時間保育

☆ 保育者の援助	<ul style="list-style-type: none"> ★ 生活に慣れ、思わぬ行動を取ったり、友達間のトラブルが起こったりするので、一人一人の気持ちを受け止め、友達とのかかわりを楽しめるように仲立ちをする。 ★ 一人一人の幼児の状況や生活リズムに合わせた対応を心掛ける。 ★ 幼児が生活の流れを意識できるように声掛けし、それに気付き、自分から行おうとする姿を認める。 ★ 幼児の気持ちを十分に受け止めたり、仲立ちをしたりしながら温かな雰囲気の中で友達とのかかわりをもてるようにする。その中で、友達の気持ちを感じられるように配慮する。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 自分の健康や体について関心もち、生活リズムや休息、水分補給の大切さに幼児自身が気付き、自分で行えるように援助する。一人一人の幼児の状況を見極め、幼児の姿や生活リズムに合わせた対応を心掛ける。 ☆ 長時間保育へ安心して移行できるように、一人一人に合った丁寧な援助をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 夏に経験したことを話したい気持ちを受け止め、一人一人の話を丁寧に聞き、楽しさに共感したり友達と話すきっかけをつくらせたりする。また、みんなの前で話をし、聞いてもらった喜びを感じられるような時間を設ける。 ☆ 午睡時に眠れない幼児に対して、眠らなくても体を休めることが大切であることを個別に知らせる。

△ 保育者間の連携	<ul style="list-style-type: none"> ▲ プール・水遊びの予定や内容など、教育活動中の保育内容について情報を共有し、一日の中で静と動のバランスを考える。 ▲ 梅雨以降、気候の変化で体調を崩す幼児も出てくるので、一人一人の体調に配慮する。 ▲ 夏季休業中は様々な保育者が保育にあたるので、学級担任は日頃の幼児の様子について事前に伝えておく。特に配慮を要する幼児の情報は丁寧に伝えるようにする。 ▲ 夏季休業明けは生活のリズムが変わり、疲れが出やすい時期であるので、一人一人の様子を丁寧に把握し、引継ぎをする。 	
		<ul style="list-style-type: none"> △ 他のクラスと一緒にプールに入ったり交流したりする際は、内容や時間などを保育者間で十分に話し合い、連携して準備する。 △ 個々の幼児の様子を把握し、午睡のもち方や移行時間などについて保育者間で話し合う。

□ 保護者との連携	<ul style="list-style-type: none"> ■ 降園時の話やクラス便りを通して、幼児の姿や成長、友達関係の広がりについて知らせる。 ■ 汗をかいたり水遊びをしたりして着替えが多くなるので、自分で着脱できる衣類の準備、記名、衣類の補充などを依頼する。 ■ プール・水遊びに際して、プールカードなどを活用し、家庭と連絡を取り合い、健康状態に十分に留意する。 ■ 夏は体が疲れやすいことや夏特有の病気が流行することを伝え、家庭でも十分に睡眠や栄養がとれるよう配慮してもらおう。 ■ 休み中の様子や経験したことを保護者から聞いたり、園での様子を伝えたりする。保護者に、教育活動の様子を知らせる掲示板があることを知らせ、その掲示板を見ることを促す。 	
	<ul style="list-style-type: none"> □ 夏季休業中、夏季休業前後も安心して利用してもらえるよう、一日の流れや持ち物などを丁寧に説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 友達への関心が高まる時期であることを踏まえ、トラブルの状況や対応を丁寧に知らせる。 □ 休み明けは、一人一人の実態に応じて生活リズムを取り戻せるように各家庭に協力を求める。 □ 午睡や休息状況を個別に知らせる。

5歳児 Ⅲ期（9月中旬～10月）

預かり保育

長時間保育

ねらい

- ◎ 生活や遊びのきまりを思い出しながら気持ちよく生活し、自分でできることを進んでやってみようとする。
- ◎ 友達とのかかわりを大切にしながら好きな遊びをじっくりと楽しむ。

- ◎ 気温の変化に合わせて環境を整え、健康に過ごせるようにする。
- ◎ 戸外で十分に体を動かし、友達と一緒に遊びや生活を展開する楽しさを味わう。
- ◎ 共通の目的に向かって、友達と工夫したり考えたりして自分たちで活動を進める。

内容・活動等

- 生活の流れやきまりを思い出し、自分でできることを進んで行う。
- 好きな遊びを友達と楽しむ。
- 秋空の下で心地よさを感じながら、体を動かし、友達と遊びを発展させる。
- 遊びや生活の中で自分の思いや考えを言葉で伝え、相手の気持ちにも気付こうとする。
- 自分の気持ちや思っていることを言葉で伝えたり、相手の話を聞こうとしたりする。
- 友達や保育者に自分の思いや気持ちを分かるように伝えながら遊ぶ。

- 季節の変わり目で体調を崩しやすくなるので、気温の変化に合わせて環境を整え、健康に生活できるようにする。
- 活動や遊びのバランス、体の疲れを考えて生活しようとする。
- 進んで戸外に出て遊び、友達と考えた遊びのルールを守って、思いきり体を動かして遊ぶ。
- 目的をもって友達と一緒に作ったり、描いたりする。
- 友達の頑張っている姿を応援したり、できるようになったことを共に喜び合ったりする。
- ルールのある遊びを友達と楽しみ、相談したり力を合わせたりする。
- 異年齢児に遊びを教えたり、頼られる楽しさを実感したりする。
- 午睡の時間が短くなったり、なくなったりすることを知り、自分で休息をとろうとする。

◇ 環境構成

- ◆ 運動的な活動が増える時期なので、教育活動の内容・運動量や一人一人の様子を把握し、落ち着いてゆったりと過ごせる環境を設定する。
- ◆ 遊びの様子や人数に応じて、安心して過ごせるように環境を構成しながら安全にも配慮する。
- ◇ つい立てなどを活用し、一人になれるコーナーを作り、自分のペースやゆったりと過ごせる空間を作る。
- ◇ 環境の設定や活動時間を同じにすることで、自分から気付き、自分でできることは自分でやろうという気持ちを育てていく。
- ◇ 個々の様子を見ながら遊びの計画を立て、幼児自身が選択できるようにする。
- ◇ 教育活動の内容や一人一人の健康状態に応じて休息や午睡時間を考える。
- ◇ じっくりと物作りに取り組める環境や時間設定を考える。できあがった満足感や達成感を味わえるようにし、遊びが継続できるように製作途中の物の置き場や約束事を幼児と考える。
- ◇ 雲の様子や木の葉の色の変化、木の実など幼児の気付きに共感し、気付きを話題にする。季節の移り変わりや不思議さに関心がもてるように、絵本や図鑑などの環境を用意し、保育者も一緒に楽しむ。
- ◇ 自分で生活のイメージや見通しをもって生活できるようにする。
- ◇ 午睡は、眠らない幼児への対応（午睡から起き、静かに過ごすなど）を考慮する、時間を短縮するなど、個々の様子を詳細に把握し、無理のない計画を立てる。

預かり保育

長時間保育

☆ 保育者の援助	<p>★ それぞれのペースに合わせて生活のリズムを取り戻し意欲的に生活できるように活動の流れを分かりやすく知らせる。また、生活に必要なことに気付いて自分でやろうとしている姿勢を認めるとともに、友達の姿を知らせ、互いに認め合うことができるよう働き掛ける。</p> <p>★ 生活や遊びの場面で、行ってよいことといけないことや、今何をするときかを自ら考えられるよう、言葉掛けをする。</p>	
	<p>☆ 幼児の気持ちを十分に受け止めたり、仲立ちをしたりしながら、温かな雰囲気の中で友達とのかかわりをもてるようにする。その中で、友達の気持ちを感じることができるよう配慮する。</p> <p>☆ 長時間保育へ安心して移行できるように、一人一人に合った丁寧な援助をする。</p>	<p>☆ 友達とのかかわり合いの様子を見守り、それぞれが考えていることや気持ちを保育者が丁寧に受け止める。幼児同士で上手く話がつかなかったときには保育者が一緒に原因を探り確かめながら、互いの考えや思いを出し合えるように援助する。</p> <p>☆ 気温の変化や活動によって衣服を調節する必要性や手洗い、うがいの大切さを知らせ、健康に過ごせるようにする。</p>

△ 保育者間の連携	<p>▲ 運動会へ向けたねらいを明確にするとともに、運動会終了後から修了へ向けての成長の道筋について共通理解するため、保育者間で話し合う機会をもつ。</p> <p>▲ それぞれの時間帯の保育を見合う時間をもつ。運動会の練習を参観し、その日の保育を構成するための参考にする。</p> <p>▲ 運動会の取組を受けて、踊ったり走ったりして楽しむ幼児が増えるため、安全に遊ぶことができるように場を確保したり保育者が連携して見守ったりする。</p>
-----------	--

□ 保護者との連携	<p>■ 運動会のねらいや取組の過程について、クラス便りや掲示などを通して保護者に伝える。</p> <p>■ 気候の状況や園での生活の様子などを伝え、衣類の種類や数を考慮して準備してもらうよう依頼する。</p>	
	<p>□ 徐々に預かり保育を利用する保護者が安心感をもてるように、掲示板などを利用して、直近の預かり保育での様子を伝える。</p>	<p>□ 午睡なしの日を設定するにあたり、園での様子や今後の予定を伝えるとともに、家庭での幼児の体調や状況を聞き取り把握する。</p>

5歳児 IV期（11月～12月）

預かり保育

長時間保育

ねらい

- ◎ 生活や遊びのきまりを守り、気持ちよく生活し、自分でできることを進んで行う。
- ◎ 自分のやりたい遊びや体を動かす遊びを繰り返し友達と楽しむ。

- ◎ 生活に見通しをもち、友達と一緒に遊びや生活を展開する楽しさを味わう。
- ◎ 戸外で体を動かして遊ぶ心地よさを味わう。
- ◎ 友達と一緒に考えやイメージを出し合い、共通の目的に向かって、協力しながら実現していく喜びを味わう。

内容・活動等

- 生活の仕方や約束事を理解し、自分でできることを自分で行う。
- 防寒着の始末や手洗い・うがいを自分から行う。
- 間食の後に鏡を見て口の周りを確認したり、下着が出ていないかを自分で確認したりするなど、身だしなみを整える。
- 自分のやりたい遊びを見付け、十分に楽しむ。
- 戸外で鬼遊びやドッジボールなど思い切り体を動かしながら、友達とルールを確かめあったり、考えたりしながら遊ぶ。
- 自分の思いや考えを伝えるとともに、友達の意見も聞きながら一緒に遊ぶ。
- やってほしいことややってみたいことを保育者に言葉で伝えようとする。

- 一人一人が自己発揮し、安心して生活できるようにする。
- 体調や気温、運動量に合わせて自分で衣服を調節する。
- 作った物で遊ぶことを楽しみ、満足感を味わう。
- 自然に親しむ中で、図形・数量・文字・時間等に関心をもつ。
- ルールや遊び方を考えながら全身を使って思いきり遊ぶ。
- 自分の考えを友達に分かるように言葉で伝えたり、友達の気持ちを受け入れたりする。
- 共通の目的に向かって、友達と話し合い工夫しながら一緒に遊ぶ楽しさを味わう。
- 異年齢の友達に思いやりをもってかかわる。
- 午睡時間が短くなったり、なくなったりすることで自分の体調の変化に気付き、休息をとろうとしたり、保育者に状況を話したりする。

◇ 環境構成

- ◆ 外気との温度差を考慮しながら室温調整をしたり、換気や湿度にも配慮したりして健康に過ごせるようにする。
- ◆ 教育活動など幼児の一日の過ごし方に配慮しつつ、運動的な遊びとともに室内でじっくりと遊ぶ遊びを設定し、個々に選択して遊べるようにする。
- ◆ 遊びに必要なものを自分のイメージをもち製作できるように材料の選定や環境設定を行う。

- ◇ 体調不良になりやすい時期でもあるので個々の健康状態を把握し、無理のない活動計画を立てる。
- ◇ つい立てなどを活用し、一人になれるコーナーなど、自分のペースでゆったりと過ごせる空間を作る。

- ◇ 一人一人が自分のペースを大切にしながら、やりたい遊びをじっくりと取り組めるようにするために、コーナーを設けるなど環境設定を工夫する。
- ◇ 戸外で遊ぶ時間に、木の葉の変化や風の冷たさなどから季節の移り変わりを肌で感じられるようにする。また、不思議に思ったり、自分で調べたり、考えたりできるように図鑑や虫眼鏡などを用意する。
- ◇ 感謝の気持ちや心地よさを感じるよう、保育室や身の回りの大掃除をする。
- ◇ 午睡なしの日を少しずつ増やしていく。それに伴い、遊具を見直し、午睡をしない時間をゆっくりと過ごせるように配慮する。また、眠くなったり疲れたりしている幼児が安心して休息できる場を用意する。

預かり保育

長時間保育

☆ 保育者の援助	<ul style="list-style-type: none"> ★ 遊びを進める中でトラブルが起きたときは、幼児同士が意見を出し合えるように見守り、自分たちで解決できるように後押しする。 ★ 鬼遊びやドッジボールなどルールのある遊びを話し合いながら楽しむ場面を大切にし、その様子を見守りながら必要に応じた援助や仲介をする。 ★ 感染症が流行しやすい時期であるため、衣服の調整や手洗い・うがいの大切さを伝え、自分から気付くように声掛けをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 幼児の頑張りやアイデアを認め、幼児全体にも知らせることで友達の良さや大切さに気付けるようにする。 ☆ 遊びや生活の中で、自ら危険なことに気付き、自分で気を付けられるように、その都度声をかけたり、全体で指導したりする。 ☆ 年末・年始の風習について、正月遊びや伝承遊びと一緒に楽しみながら話したり幼児全体に対して分かりやすい言葉を選び伝えたりする。
	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 長時間保育へ安心して移行できるように、一人一人に合った丁寧な援助をする。 	
△ 保育者間の連携	<ul style="list-style-type: none"> ▲ それぞれの時間帯で使っている教材や楽しんでいる遊びを紹介するなど、それぞれの保育について情報を交換し、参考になることを保育に取り入れる。 ▲ 気候の変化に伴い、体調を崩しやすい時期であるため、一人一人の体調の変化に留意し、保育者間で情報を共有する。 ▲ 夕方になると一日の疲れも見られるので、保育者間の連絡を密にし、幼児が安全に遊べるように見守る。 ▲ 個人面談の前には、事前にその幼児の成長と課題について、保育者間で情報を共有し、保護者に伝える内容を整理する。 ▲ 個人面談終了後は、保護者と話した内容を保育者間で共有し、指導に生かしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> △ 冬季休業中の過ごし方（持ち帰る物、大掃除の方法、異年齢交流など）を保育者間で話し合う。 △ 個々の幼児の様子を把握し、時間設定（午睡のもち方や移行時間など）について保育者間で話し合う。
□ 保護者との連携	<ul style="list-style-type: none"> ■ 個人面談を設定し、遊びの様子や友達とのかかわりの中で変容した姿を伝え、成長を喜び合う。 ■ 手洗いやうがいなど冬の健康な生活習慣について、園の取組を知らせるとともに、家庭にも協力を求め、習慣の定着を図る。 ■ 外遊び用の上着や日常的に使う防寒着は、動きやすく、幼児が自分で扱うことができる物を用意してもらうように依頼する。 ■ 感染症が流行する時期であるため、体調の変化が見られた時は詳細を伝え、注意を促す。 ■ 園やクラスで感染症が発生した場合は、症状などを具体的に知らせ、注意を促す。 ■ 感染症に罹患した場合は、出席停止の扱い、登園許可証の提出などについて伝え、協力を求める。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 家庭でも、自分でできることは自分で行うよう、家庭での協力を依頼する。 □ 午睡なしの日の家庭での様子などを聞き取り、保護者とともに、よりよい生活の組み立てについて考える。

5歳児 V期 (1月~3月)

預かり保育

長時間保育

ねらい

- ◎ 預かり保育でのきまりを守り、生活習慣を身に付けて自分で行動する。
- ◎ 自分がやりたい遊びを意欲的に展開していく。
- ◎ 小学校1年生になる期待と自覚をもち、見通しをもって生活する。

- ◎ 楽しかった経験を生かして繰り返し遊んだり、自分の成長を感じたりしながら、就学への期待をもち。
- ◎ 冬の自然事象や身の回りの出来事に興味や関心をもち、遊びに取り入れ楽しむ。
- ◎ 自分の力を十分に発揮しながら、友達と協力して遊びや生活を進め、充実感を味わう。

内容・活動等

- きまりを守り、よい生活習慣を身に付けて行動する。
- 保育者や友達に、生活の中で困っていることを自分から伝えたり聞いたりするなど、自分でできることが増え、自信をもって行動する。
- 友達と季節ならではの遊びを楽しんだり、戸外で体を動かしたりして遊ぶ。
- 自分がやりたい遊びを見付け、意欲的に友達と遊びを広げていく。
- 様々な友達とのかかわりを深め、自分の考えを伝えながら様々な遊びを楽しむ。
- 友達とのつながりを感じ、一緒に過ごす喜びを存分に味わう。

- 自らの生活習慣を見直すことを通して、よい生活習慣について考え、行動に移す。
- 1年間を思い出し、自分の成長を感じ、就学への期待をもって生活する。
- こま回し、カルタ、すごろくなどで遊びながら文字や数量・図形に興味をもち、理解を深める。
- 冬の自然に関心をもち、遊びに取り入れ、試したり、工夫したりして遊ぶ。
- 友達と一緒に積極的に運動遊びや集団遊びを楽しむ。
- 友達のよさを認め、役割を分担したり、力を合わせたりして遊びや生活を進め、友達とのつながりを感じ、共に過ごす喜びを存分に味わう。
- 異年齢児に自分からかかわり、遊びを通してつながりを深める。
- 自分たちの成長を保育者と共に喜び合う。
- 午睡なしの生活に慣れ、意欲的に生活する。

◇ 環境構成

- ◆ 生活の見通しをもって行動できるように、時間や活動の流れを事前に知らせたり、生活の流れを幼児と一緒に決めたりする。
- ◆ 戸外で遊ぶ機会を作り、体を動かして遊ぶ楽しさを味わえるようにする。
- ◆ 好きな遊びを見付けてじっくりと遊べるような環境設定を心掛け、幼児がどんな遊びに興味を持っているかを把握し、教材や玩具を準備する。
- ◆ 異年齢児に思いやりをもってかかわったり、遊びを伝えたりできる場面を設定する。

- ◇ つい立てを活用し一人で遊び込めるコーナーを作り、ゆったりと過ごせるようにする。
- ◇ 好きな遊びをじっくりと楽しめるように、幼児の様子を見たり要求を聞いたりしながら教材準備や環境設定を行う。
- ◇ 預かり保育で楽しんできた遊びを振り返って、遊具や用具を準備し、環境設定を行う。

- ◇ 午睡なしの生活になり体調不良になりやすいので、一人一人の状態を確認し、無理なく過ごせる活動内容や環境設定を考える。
- ◇ こまやカルタ、すごろく等を準備し、いつでも友達と楽しめるように設定する。文字への興味も出てくるので自分で読めるような簡単な絵本やひらがな表などを用意する。
- ◇ 冬の自然に触れ、自分で調べたり、イメージをもって遊んだりできるように図鑑や絵本などを準備する。
- ◇ 園生活の思い出を振り返りながら自分たちで過ごした保育室の掃除や整理整頓を行う場を設定する。
- ◇ 午睡がなくなり、好きな遊びを十分に楽しめるように、新しい遊びを提供するなど環境設定を工夫する。

預かり保育

長時間保育

☆ 保育者の援助	<ul style="list-style-type: none"> ★ 幼児が生活の流れを意識し、先を見通して行動できるよう、個々の状況に応じた援助をする。 ★ 幼児同士が話し合ったり、ルールを決めたりしている姿を見守り、自信や意欲につなげる働き掛けをする。 ★ 友達とのかかわりの中でトラブルが生じた際は、その姿を見守り、幼児が援助を求めてきたときには双方の気持ちを聞き仲介し、一緒に解決方法を探るようにする。 ★ 自分たちで遊びを進め、楽しんでいる姿を十分に認め、自信や仲間意識を高められるような働き掛けをする。 ★ 異年齢児へのかかわりを見守り、必要に応じて仲介する。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 保護者の就労等により長時間保育へ移行する際は、安心して長時間保育での生活に始めるよう、一人一人に合った丁寧な援助をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 生活習慣がどの程度身に付いているのか、一人一人確認しながら、必要に応じて適切なアドバイスを与えるとともに、できることを認め、自信につなげられるように援助する。 ☆ 時間を意識して時計を見ながら生活できるように声掛けを工夫する。 ☆ 園生活を振り返ったり、思い出を話したりしながら個々のよさを認め、成長を喜び、自信をもって就学できるようにする。

△ 保育者間の連携	<ul style="list-style-type: none"> ▲ 生活発表会に向けての活動や、当番活動の引継ぎ、お別れ会の準備など、様々な活動が入ってくるので、疲れや興奮が見られる幼児も予想される。学級担任は教育活動での様子を丁寧に伝える。 ▲ 感染症が流行する時期であることを踏まえ、幼児の体調については特に細かく引継ぎを行う。また、各クラスの状況（罹患者数など）の情報を共有する。 ▲ 一人一人の幼児の成長と課題について、保育者間で話し合う機会をもち、共通理解をした上で次年度に引き継ぐ。
-----------	---

□ 保護者との連携	<ul style="list-style-type: none"> ■ この時期ならではの生活発表会に向けた取組、当番の引継ぎ、お別れ会など修了へ向けた取組などについて、口頭や掲示で知らせる。 ■ 保護者が、修了関係の書類提出や各種手続き等について遺漏なく行えるよう、重要事項を保護者に確実に伝達できる園体制を整えておく。 ■ 感染症の発生状況や手洗い、うがいなどの予防の大切さを知らせるとともに、家庭でも体調の変化に留意してもらうように促す。 ■ 小学校での保護者との連携は、就学前とは異なることを理解できるよう、機会を捉えて話す。
	<ul style="list-style-type: none"> □ その日の幼児の姿から、成長を感じたことを具体的に伝え、就学に向けて成長の喜びを共有する。 □ 幼児の成長の姿を具体的に知らせ、成長の喜びを共有する。 □ 1年間の園への理解、協力に対するお礼を伝えるとともに、就学に向けて生活を見直すよう促す。 □ 就学に向けて不安のないように保護者とのコミュニケーションをより密にとっていく。